



かわちながの 働ライフ

KAWACHINAGANO HATA-LIFE

河内長野市で働く若者の仕事と暮らし

1

子どもたちの成長がやりがい

天野山保育園の角明恵さん

河内長野市内で働く若者たちの日常を取材し、このまちで暮らし続ける魅力をお届けする新シリーズが始まります。

第1回は短期大学を卒業後、天野山保育園で保育士として8年目を迎える角明恵さんです。

角さんは毎朝、自宅から職場までバイクで約10分の距離を通勤し、早い時は7時前に出勤することもあるそうです。保育園ではすべての年齢の担任を経験し、昨年度には4歳児20人を受け持ちました。

「散歩、お絵かき、ままごとだけでなく、食事や着替えができるよう援助したり、友だちとの関わり方を伝えるなど、私たちが保育士の大切な役割です」と物静かに語る角さん。

立つ・歩くなど成長が分かりやすい乳幼児とは違い、年中ではじっくりと成長に寄り添えるそうで、「4月には落ち着きがなかった子が1年間で驚くほど成長し嬉しくなりまし」と、今の仕事のやりがい

を話してくれました。

一方で、角さんは人見知りする性格で、保護者への対応や関係づくりに悩んだことも。それでも、真面目で信頼感のある仕事ぶりは園長先生も太鼓判を押すほど。卒園式で保護者からのお礼の言葉に感極まって号泣したことが一番の思い出となっています。

「自分の性格と園の環境があつてなと感じます。これからも、子どもたちの成長を支えていきたいです」と、素敵な笑顔で応えてくれました。



【取材協力】天野山保育園

天野町 295-1 (☎ 52-5819)

緑に囲まれたアットホームな保育園。田植えや野菜の収穫など自然にしみながら食育を学べ、普段の遊びでは元気いっぱい体を動かし、のびのびと過ごせます。通園バスも運行し、送迎の負担軽減を図っています。



休日はのんびりしたり、同僚と山登り

休日は洗濯や掃除をしたり、エレクトーンでディズニーの曲を弾いたりして過ごします。高校時代は陸上部で短距離走とやり投げをしていたので、園の運動会のリレーではちょっぴり活躍。体を動かすことが大好きなので山登りにも行きます！去年の秋には岩湧山のススキがきれいでした。とはいっても、和歌山の実家が恋しくなると、原付バイクで紀見トンネルを超えて帰ることも。時々、両親が栽培している、はっさくの収穫を手伝います。

